

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |                 |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称     | (仮称)博多駅東3丁目プロジェクト     | 階数     | 地上11F           |
| 建設地      | 福岡県福岡市博多区博多駅東3丁目      | 構造     | S造              |
| 用途地域     | 商業地域、準防火地域            | 平均居住人員 | 1,011 人         |
| 地域区分     | 7地域                   | 年間使用時間 | 4,380 時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 事務所、飲食店、工場            | 評価の段階  | 実施設計段階評価        |
| 竣工年      | 2021年4月 予定            | 評価の実施日 | 2019年10月25日     |
| 敷地面積     | 2,628 m <sup>2</sup>  | 作成者    | 大浦 貴浩           |
| 建築面積     | 2,077 m <sup>2</sup>  | 確認日    | 2019年10月31日     |
| 延床面積     | 13,174 m <sup>2</sup> | 確認者    | 大浦 貴浩           |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 72% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

| 3 設計上の配慮事項   |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>総合</b></p> <p>博多駅の南の玄関口に立地した新たなオフィスビルとして、建物を可能な限り整形とし、高さを最小限に抑えることで、街並みへの調和を図った。内外観デザインもシンプルな構成とし、災害対策機能を併せ持つ計画とした</p> | <p>その他</p> <p>0</p>   |  |
| <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>空調を行う室のガラスはLOW-eガラスとし、熱負荷を極力抑え、内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。</p> <p>また、ガラス面も可能な限り抑えることで昼光制御への</p>    | <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>福岡市まちづくり条例に準拠し、バリアフリーな建物とした。</p> <p>維持管理に配慮した設計として、防汚性の高い塗装や効果的な水切等による外壁汚れの防止、</p> | <p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>道路に面した敷地内に植栽を適宜配置し、まちなみや景観に配慮した。</p> <p>また、境界部には連続した塀等を作らずに見通しの良いフェンスを設け、ピロティ部は開放性を高めることで</p>                                  |
| <p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>BPI値0.88未満、BEI値0.65未満とすることで、建物外皮の熱負荷抑制と設備エネルギーの消費量を最小限に抑える計画とした</p>                               | <p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>再生水利用システムを採用。</p> <p>また、省水型機器を設置することで、節水への取り組みを行った。</p>                         | <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>燃焼機器を使用しない計画とすることで、外部空間への大気汚染物質の発生に配慮した。また、適切な量の自転車置き場・駐車場・荷捌き車輛駐車施設を設ける事で、敷地周囲の交通負荷抑制に配慮した。さらに、屋上機器の目隠し壁による景観配慮や外観色彩の統一を図った。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される